

【その他 情報提供】

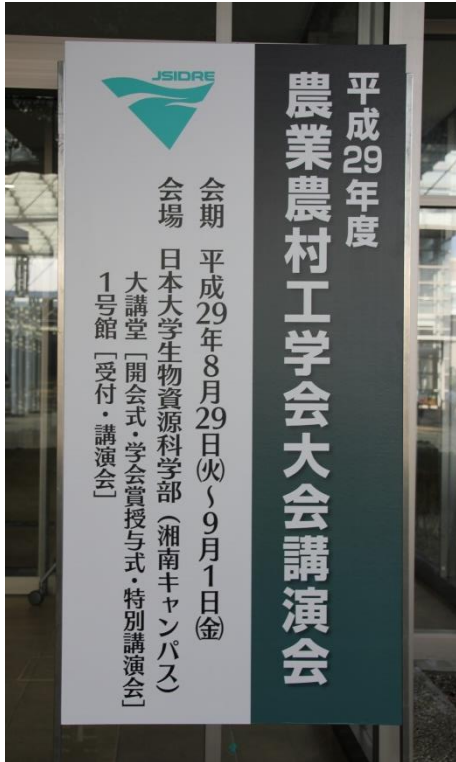
平成30年度 上サロベツ自然再生協議会

稚内開発建設部からの情報提供

～ 農業農村工学会賞『上野賞』受賞の紹介 ～

平成30年6月16日

◇学会賞授与式(平成29年8月29日)



(公社)農業農村工学会 久保会長より賞状の授与
【サロベツ農事連絡会議 議長 山本寿昭氏】



上野賞受賞挨拶
【豊富町 副町長 川原清己氏】



授与式後の記念撮影 (左から)
豊富町: 川原副町長
サロベツ農事連絡会議: 山本議長
上サロベツ自然再生協議会: 梅田会長
北海道開発局稚内開発建設部: 矢部稚内農業事務所長



上野賞受賞の賞状と記念品の箱

◇上野賞受賞記念報告会(平成29年11月27日)

平成29年度 農業農村工学会賞『上野賞』 受賞記念報告会

と き：平成29年11月27日(月)午後1時
と ころ：豊富町民センター 2F大ホール

次 第

1. 開 会
2. 来賓・講師紹介
3. 来賓挨拶 北海道開発局農業水産部調整官 参 鍋 修 二 様
4. 祝電披露
5. 上野賞受賞者挨拶 北海道豊富町長 工 藤 栄 光
6. 上野賞受賞報告 北海道開発局稚内開発建設部稚内農業事務所長 矢 部 知 幸 様
(休 憩)
7. 上野賞受賞記念講演 北海道大学名誉教授 梅 田 安 治 様
8. 閉 会

【受賞記念報告会：会場の様子】



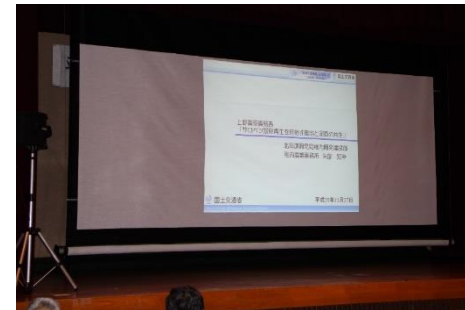
【来賓挨拶】



【工藤町長による受賞者挨拶】



【稚内農業事務所による受賞報告】



【梅田先生による記念講演：泥炭地湿原をサロベツ・豊富に学ぶ】



◇上野賞と上野英三郎先生

『上野賞とは?』

- 昭和46年に**農業土木事業として顕著な業績**のあるものを、農業土木学会（現：農業農村工学会）として表彰すべく、農業土木学の開祖といわれた『上野英三郎先生』の名を冠した賞であります。
- 「公益社団法人農業農村工学会学会賞授賞規程」によると『上野賞は、**農業農村に関する事業の新しい分野の発展に寄与すると認められる業績をあげた組織・団体に授与する。**』とされております。

『上野英三郎先生とは?』

- 上野英三郎先生（三重県出身）は、渋谷駅前の銅像で有名な**忠犬ハチ公の飼い主**として知られ、明治28年に東京農科大学農学科を卒業後、大学院を経て東京帝国大学に勤められながら農商務省、内務省を兼務されて、耕地整理、土地改良事業の計画に参加されました。
 - 先生の功績は、**農業土木学の基礎を作り、その事業を担う技術者を養成**したことが上げられ、農商務省での講義を含む受講者は二千人を超えるとされています。
- 教育関係では、東京帝国大学に**農業土木の専修コース**を創設され、これが**日本の大学における農業農村工学のルーツ**となっています。また、大学だけでなく、技師としての実務的手腕も大いに発揮され、**河川改修、治水事業、産米増殖計画**など計画立案の実施など多方面に活躍されました。



◇『上野賞』選考理由

表彰業績：サロベツ湿原再生を目指す農地と湿原の共生

授賞対象者：豊富町・サロベツ農事連絡会議・北海道開発局稚内開発建設部

選考理由：サロベツ湿原は貴重な生態系・環境を有することから、国立公園への指定、ラムサール条約湿地への登録がなされているが、近年その乾燥化が懸念されている。一方、サロベツ湿原に隣接する農地区域は、泥炭地ゆえの地盤沈下により排水路の機能が低下し、降雨後の湛水被害や過湿障害が発生しており、排水改良が強く求められていました。

そのため、当該農地区域を受益地とする国営総合農地防災事業「サロベツ地区」では、農地の地下水位を適度に低下させ、かつ、湿原の地下水位を高く保持するという、相反する条件を同時に満たすことが課題となっていました。

この問題に対して本事業では、湿原の乾燥化による湿原環境への影響を緩和するため、湿原に隣接する農地区域内に、総延長10.1 km、面積25 haにおよぶ大規模な『緩衝帯』を設けることにより、農地としての排水機能の確保と、湿原の保全に必要な地下水位の維持の両立を目指すという取り組みを行いました。その際、緩衝帯における水位維持方法としては、湿原と農地区域の境界にある既存の排水路に加え、新たに緩衝帯の農地側により深い排水路を設置し、それぞれ異なる水位で維持する方法をとりました。この方式により、課題だった**農地と湿地の双方に適応した地下水位を実現**できており、かつ、他の遮水壁による湿地から農地への地下水の遮断や、ポンプによる湿地への給水等の方法と比べて、維持管理における運用・補修の費用が安く抑えられており、自然の**物理的性質を利用した画期的な方策**として高く評価されました。

また、緩衝帯構想の検討段階から、地域住民の代表や地域に長年携わってきた学識経験者など多様な関係者の参加により、**行政との相互理解と人の繋がり**が得られており、これらの繋がりによりシンポジウムやワークショップ等に農家だけでなく**地域住民が積極的に参加する環境**が地元主体で整えられていました。その結果、国・町・農事連絡会議の間で、豊かな湿原環境を保全することが、地域の農業とサロベツブランドの確立につながるとの意見集約がなされ、また、緩衝帯の用地は地元農家の無償提供で創出されたなど、革新的な成果を得ております。また、今後は緩衝帯設置後の地下水位制御の効果を地元が継続してモニタリングする等、農地の排水改良と湿地の維持保全との共生を、検討段階から設計、施工、効果の検証まで、**官民学が参加して総合的**に行っており、今後、**環境保全と農業振興を両立させる事業の進め方のモデル**になりうる事業として、高く評価されました。

以上より、本事業は農業農村工学に関する事業の**新たな分野の発展に大きく寄与**したと認められ、**上野賞を授与するに相応しいと評価**されたものです。